「日々の理科」（第 1231 号） 2017（H29）, 11, 19

「樫の木の下で（２）」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

「ドングリ」がなるブナ科の樹木は種類が多い。東京付近で見られるものとしては、以下の５種類がある。

上段左から「コナラ」「シラカシ」「スダジイ」
下段左から「マテバシイ」「クヌギ」（絵；C.Tanaka）

このうち「シラカシ」と「マテバシイ」は常緑樹である。シラカシの果実はコナラに形も大きさも似ている。しかし、帽子（殻斗）が同心円状の模様になっていることで、確実に見分けがつく。

この「帽子付き」が子どもたちの人気の的なのだが、果実が樹木から落ちる時に分離して、帽子だけ枝に残ったり、地面に落ちた時の衝撃で、分離してしまうことが多い。地面に落ちているシラカシのドングリで、完全に帽子（殻斗）が残っているものは、100 分の 1 ぐらいだろう。「貴重品」なのである。

当然ながら、子どもは誰もが「帽子付き」の「完全標本」を必死で探す。しかし、クラス全員が入手することはまず困難である。

地面のドングリにあきらめがつくと、子どもたちは今度は枝を見上げてさがしだす。地面に落ちたドングリの「供給源」は、このシラカシの樹なのだから、どこかの枝に必ずなっているはずである。しかし、シラカシは常緑樹。晩秋でも青々と葉を茂らせ、枝に残った果実はなかなか見つからない。さて・・・